

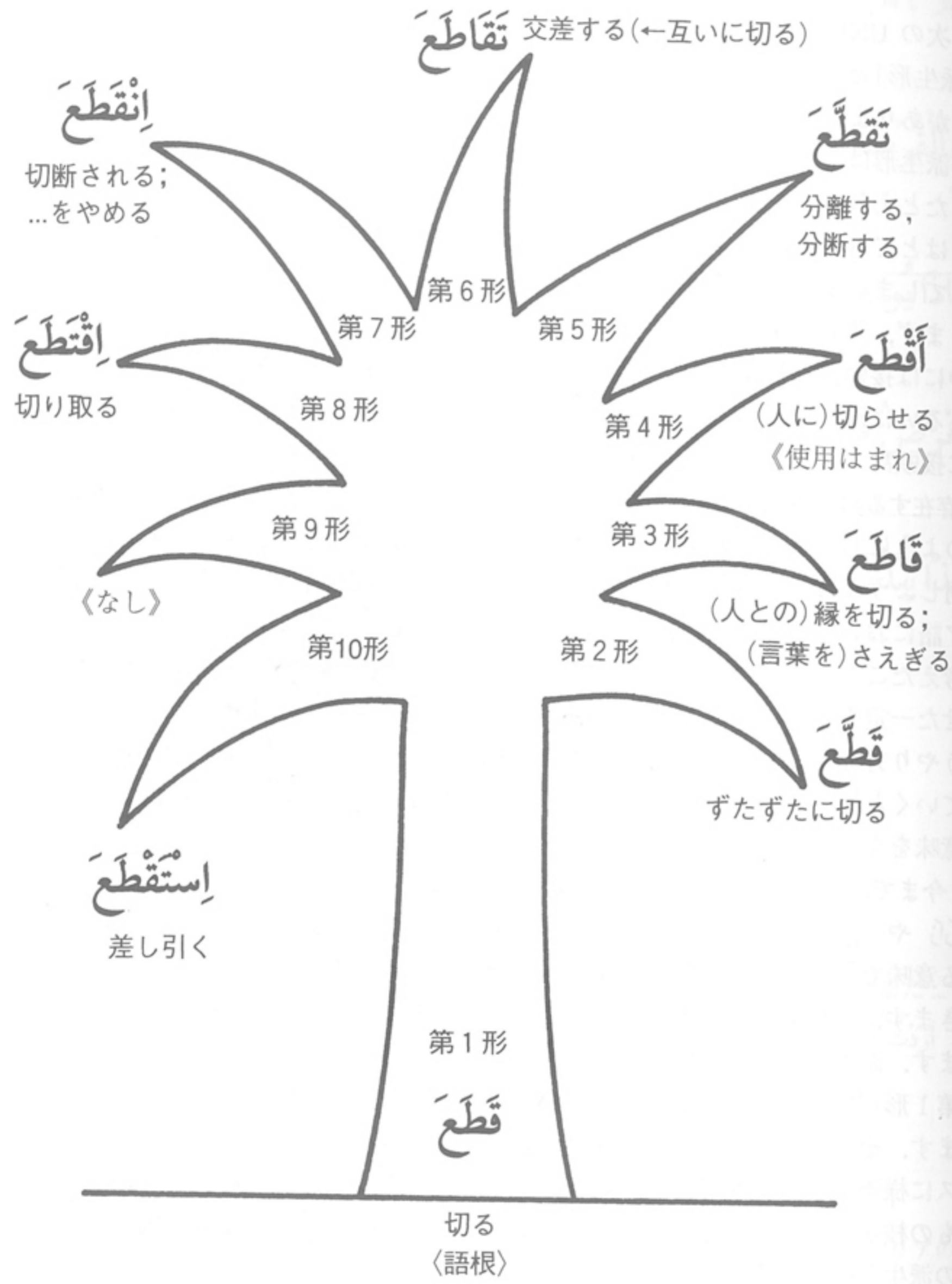
## INFORMATION 「動詞の派生形」とは何だろう？

次の UNIT から「派生形」という新しい項目を見ていきます。それに先だって、「派生形」とは一体どのようなものなのかということを経験的に理解していただく必要がありますので、ここにすこし頁をさいて説明したいと思います。

派生形は、アラビア語の動詞全体の中でも最も重要な部分を占めています。人体にたとえば骨格のようなものではないでしょうか。学習者にとってその意味を理解することはとても興味深いことですが、反対に十分理解できていないとその複雑さにまいてまいてしまいます。

まず、英語の単語を例にとってみますと、英語の動詞(あるいは名詞や形容詞)の中には接頭辞や接尾辞を付けることによって元の意味を展開させ、関連した意味やあるいは別の意味をもたせている例が数多くあります。例えば、mind (気にかける)に接頭辞として re- をつけて remind にすると「思い出させる」になります。また exist (存在する)に co- をつけると coexist で「共存する」となります。言うまでもなく、このようにして作られた語彙を私たちは意識せずに通常使っているわけです。これと同じようなことがアラビア語にもあるのです。それが「派生形」です。しかしアラビア語においては接頭辞や接尾辞を付けるというやり方ではありません。アラブ人の考えたことは、元になる動詞の形(すなわち3語根)そのものをある意味傾向をもたせた一定のパターンの中に入れることによって、新しい動詞を作り出していくというやり方です。すなわち元の語根の意味に、もうひとつ別の意味傾向がプラスされていくということです。それによって元の語根の意味と関連をもちながらも、別の意味をもつ新しい動詞が生み出されるのです。

今まで私たちが見てきた動詞は規則動詞( كَتَبَ や دَرَسَ など)と不規則動詞( مَرَّ ، زَارَ や رَمَى など)でした。これらの動詞は、これから出てくる「派生形」と対比する意味で「基本動詞」と呼びます。派生形は基本動詞の3語根を元にして作られています。派生形は、基本動詞を第1形動詞とすると、第2形から第10形まであります。派生形の第2形から第10形まではそれぞれ決まったパターンをもっており、第1形(基本動詞)の3語根をそのパターンに入れることで自動的に作ることができます。そしてそれぞれの形で独自の意味傾向をもっており、元の動詞の意味をベースに様々に意味を展開させていくのです。これを木にたとえると、主幹からいくつもの枝が分かれていくのに似ています。次頁の図は قَطَعَ (切る)を例にとって動詞の派生とその意味展開を説明したものです。



このように「切る」という意味が様々な展開・変化していることがおわかりになったかと思います。しかし誤解してもらいたくないことは、ひとつの動詞に派生形の第2形から第10形まですべてそろって、等しく使われるということではありません。実際、動詞によって例えば派生形第2形があっても第3形はないということはふつうで、平均したらひとつの動詞に2, 3個の派生形があると言えましょうか。では次に派生形の第2形から第10形までのパターンとその意味傾向を表で示します。

	パターン	意味傾向
第1形	□ □ □	
第2形	□ □ □	1 他動詞化 2 意味の強調
	(第二語根が重なる)	
第3形	□ □   □	1 人(目的語)と共に...する 2 人(目的語)と対立して...する
	(第一語根がaの長母音になる)	
第4形	□ □ □ أ	1 他動詞化 2 使役(人に...させる)
	(先頭にأが付く)	
第5形	□ □ □ تَ	第2形の再帰形 (自ら...する, 自らを...する)
	(第2形の先頭にتが付く)	
第6形	□ □   □ تَ	第3形の相互行為 (互い...する)
	(第3形の先頭にتが付く)	

第7形      □ □ □ انْ ا  
 (先頭に انْ が付く)

受け身(...される)

第8形      □ □ ت □ ا  
 (先頭に ا が付き, 第一語根と第二語根の間に ت が入る)

- 1 第1形, 第2形の再帰形 (自ら...する)
- 2 (自ら意識して...する)
- 3 その他.

第9形      □ □ □ ا  
 (先頭に ا が付き, 第三語根が重なる)

(...色になる)など

第10形      □ □ □ استْ ا  
 (先頭に استْ が付く)

- 1 ...を求める
- 2 ...と見なす

ひとつひとつの派生形の動詞の意味について、元の動詞からどのように展開してそのような意味になったのかを知ることはとても興味深いことです。というのはこれによってアラブ人の言語感覚、あるいはそれを生み出す元になった彼らの思考方法、ひいては世界観というようなものが垣間見えてくるからです。

また実利的な面では、ある動詞の意味が分からない場合でも、その形が派生形のひとつであるということさえ分かれば、その語根の意味をベースにある程度意味を割り出すことも可能なのです。大まかにいって、アラビア語の語彙(動詞、名詞、形容詞など)の3分の2ほどは派生形から作られたものだと言えましょう。派生形の第2形から第10形までは、それぞれ未完了形、命令形、受動態、分詞(能動分詞、受動分詞)、動名詞の決まった形をもっており、各パターンを正確に記憶することがアラビア語学習の最大のポイントになってきます。これから辞書を使う必要があるかと思いますが、ふつうのアラビア語の辞書は語根を中心に編纂されており、単語は必ずしもアルファベット順には並べられていません。すなわち派生形動詞とその関連の品詞は、すべて元の語根動詞の項目の中に収められているのです。そのため派生形の形を知らないと、辞書の中で求める単語がどこにあるのかさえわからず、辞書さえも引けないという結果になってしまいます。